総合

第6学年

安芸高田市立美土里小学校

指導者 末永 裕子

単元名

ふるさと美土里 ~神楽応援プロジェクト~

本単元で育成する資質・能力

情報活用能力、コミュニケーション能力、協働性、よりよく生きようとする力

研究主題

主体的に学び 表現する児童生徒の育成 ~自分や集団の考えを発展させる「学び合い」の授業を通して~

1 児童観

児童は昨年度の総合的な学習の時間で米作りをテーマにした活動に取り組んできた。地域の方と関わりながら体験活動を行う中で、聞き取り調査や資料調べ等で情報を収集する力を身に付けてきている。また、学んだことを地域の方へ発信する中で表現する力も付けてきた。一方、自分たちの学習の進め方を振り返ったり自己の成長等を感じ取ったりして、それを次に生かしていくといった力は十分に身に付いているとは言えない。

本学級の児童は約1割が子ども神楽団に所属しており、実際に様々な場で神楽を披露している。所属していない児童も、近年まで所属していたり神楽門前湯治村や地域の祭り等で神楽を見て楽しんだりしており、学級のほとんどの児童が神楽を身近に感じている。また、これまでの6年生が「美土里子ども神楽発表大会」で司会などの運営を務めているのを知っており、神楽についての学習を楽しみにしている児童は多い。しかし、神楽がどのような歴史をもち、現在まで受け継がれてきたか、そして発展するためにどのような人たちが努力してきたのかについて知っている児童は少ない。

2 単元観

単元の構想に当たっては、地域の伝統芸能の継承に関わる人々の願いや生き方を学ぶことを通して、神楽についての認識を深め、地域の一員として神楽を守り、広めていく活動を仕組んでいく。その中で、「自ら課題を見付け、様々な方法で集めた情報をもとに友だちと協力しながら整理・分析を行い、課題を解決していく力」や「自分たちの学習の仕方や活動を振り返り、自己の成長を感じると共に課題を次に生かす力」を伸ばしたいと考え、本単元を設定した。

美土里町は13の神楽団が現在も活動しており、地域の祭りやイベントで神楽を見る機会が多く、神楽を身近に感じることができる。神楽を継承・発展しようと尽力されている方から直接話を聞くこともでき、児童の探究活動を支える人材が豊富である。また、「美土里子ども神楽発表大会」というイベントを中心に様々な取組を児童が考え実際に行動に移すことができる。そして、その活動を通して、地域への愛着をもたせることができる題材だと考える。しかし、今年度は新型コロナウイルスに関わり活動が大きく制限されている現状がある。

3 指導観

探究的な活動を支える土台として、様々な活動の目的をしっかりと意識した上で活動に取り組ませていく。例えば、これまでの6年生もしていたからやろうではなく、「〇〇の目的を達成するためにこの取組をしていきたい。」と児童が自ら考えられるように単元を計画していく。また、自分たちの行った活動がどのように相手に伝わったか、自分たちの活動の仕方がどうだったかを、アンケートやビデオ等でしっかりと検証することで、自己の成長や課題を次に生かす力を高めていきたい。

4 単元の目標と評価規準

| 単元目標 | | ・地域の伝統芸能「神楽」の継承や発展に尽力されている人々の願いや生き方を学ぶことを通して、自分たちの住む地域を誇りに思い、故郷を愛する心情を培う。 ・地域の一員として、伝統芸能の継承の課題や発展について、問題意識をもち自分たちにできることを考え行動することを通して、自己の成長を感じたり自己の生活をよりよくしようとしたりする態度を養う。 | | |
|--------------|------------------|---|--|--|
| 育 | 成すべき資質・能力 | 評価規準 | | |
| 知識及び技能 | 知識•技能 | ①地域に根ざした伝統文化のもつ特徴を知り、その継承に携わる人々の思いや願いが分かる。 ②比較・分類・関連付けた情報を基に一般化や構造化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付ける。 | | |
| 思考力,判断力,表現力等 | 情報活用能力 | ①伝統芸能「神楽」についての課題設定や課題解決のために必要な情報の集め 方を検討し、必要な情報を取捨選択しながら収集する。 ②集めた情報を、「Xチャート」「ウェビング」「座標軸」等の思考ツールを活用 して、比較・分類・関連付け等を行い、目的に応じて自他の情報を組み合わ せて適切に表現する。 | | |
| | コミュニケーシ ョン能力 | ①目的や相手に合わせた表現方法を適切に考え、事柄が明確に分かるように話の構成を工夫して表現する。 ②神楽体験や聞き取り、調査活動等において、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えを建設的に伝えたりすることで話合いを深める。このことを通して、神楽の伝承・保存に携わる地域の人々に主体的に関わろうとしている。 | | |
| 学びに向かう力,人間性 | 協働性 | ①伝統芸能「神楽」に興味・関心をもち、共に追究したい課題を見付け、友だちや地域の人々と進んで関わり合ったり、異なる意見を受け入れたりしながら、課題解決に向けて粘り強く取り組んでいる。 ②他者と関わり合う中で納得解や最適解を創り出すことに喜びを感じている。 | | |
| | よりよく生きよ うとするカ | ①伝統芸能「神楽」を継承している人々の思いや願いに触れる中で,地域の一員として自分に何かできることはないかを積極的に考え,実践しようとしている。 | | |

単元の指導計画(全50時間)

| 5 月 | 学習過程 | 学習活動 | 児童の思考の流れ | 児童の探究を支える手立て | 評価 |
|--------|-------|--|---|--|----|
| | | 神楽のよさって何だろう(5) | | | |
| 6 | 情報の収集 | | ・美土里と言えば、やっぱり神楽。・神楽グランプリやこども神楽などで多くの人が集まっているよ。・神楽は面白いよ。・美土里町はなぜこんなに神楽が盛んなのだろう? | ・家に神楽グッズがあれば持参させ、神楽に興味関心や疑問をもたせるきっかけを作る。 ・神楽に関わる参考文献や副読本等の資料を教室においておく。 | |
| | | ことや疑問に思っている | • 衣装やお面などすごくかっこい | | 情② |
| | | | 美土里小6年 神楽応援プロジェクト 発足! | !! | |
| | 課題の設定 | ○神楽応援プロジェクトを 立ち上げ、神楽の魅力を 伝える場や調べる事柄に ついて考えを出し合う。 (2) | ・魅力を伝えるには、まず自分だちが神楽を知るべき。 ・・神楽の歴史、ルーツ・演目・神楽団・団員さんや神楽門前湯治・村で働く方の思い・・神楽の面白さ・・・ | 美土里神楽の魅力を伝えるという目的意識をしっかりともたせ、自分たちの今後の学習課題を考えさせる。 ・KJ 法を用いて付箋を動かしながら分類させていく。 | 協① |
| | | | 魅力を伝える場として何があるだろう?去年の9月,昨年の6年が美土里こども神楽発表大会で司会をしていたよ。 | ・昨年度の6年生の様子や安芸 高田市の神楽に関するイベン トなどからどのような場面で 自分たちのプロジェクトが実 行できるか考えさせる。 | |
| | | 神楽応援 | プロジェクト 第1弾 神楽調配 | 査隊 (11) | |
| 7 | 情報の収集 | ○神楽関連本から神楽の歴 史や美土里の神楽団につ いて調べる。 (2) | | ・調べる方法について支援できるように事前に関係機関に協力や依頼、調整をしておく。 | _ |
| | | に学ぶ。(「安芸高田市も のがたり」副読本活用) | ・安芸高田神楽の危機を救った人だね。たくさんの新しい演目を考えた人なんだね。・神楽門前湯治村に他にも資料があったよ。 | 事前に副読本を使った際に、簡単に神楽のことが書かれていることに触れさせておく。 | 情① |
| | | 座(神楽資料館)で神楽に ついて調べ,安芸高田神 | | 体験的な活動を通して分かったこと、教えてもらったことを整理し、分類させる。神楽に関わっている家族や身近な地域の人々がいればイン | ⊐2 |

| 9 | 整理・分析 | っている人(神楽団員)の 思いや願いを知る。 (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) | なかった。 ・親や祖父母なども神楽をやっているけど、伝統を守るってとても大変なんだな。 ・地域だけでなく、多くの人に見られることで発展してきたんだ。 ・神楽をする人が減ったら思知力ないる人がいる人だな。 ・神楽をする人が減ったらとないる人がいる人がないでない。 ・苦労さんのために、しっかりと魅力を伝えよう。 ・ぼくも神楽をもっと頑張っていきたいな。 ・ゆっぱり神楽はいいな。美土里の自慢だな。。 ・なの自慢だな。。 | ・神楽団員の思いを聞き、神楽の魅力を伝えるという目的意識をより強めていく。・昨年度の様子を写真等で提示し、会場の雰囲気などをイメー | コ①2 知①2 知①2 協① よ① |
|----------|---------------|--|--|--|-------------------------------|
| | | 4A)0/ c= 477 - 0 - >11 | | ======================================= | |
| | | 神楽心接ノロジ | ェクト 第3弾 神楽の魅力 (| 五え隊 (15) | |
| 10 11 | 課題の設定 | | 美土里はやっぱり神楽だよね。これまで学習してきたことを発表しようよ。 | | 協① |
| | 整理•分析 | を検討する。 (5) | 自分たちの活動を報告したらいいんじゃない。 劇にして発表すると分かりやすいよ。 伝統を受け継ごうとうする地域の方の熱い思いを伝えようよ。 もっと動きを工夫するといいね。 一番伝えたいメッセージをしっかりと話し合おうよ。 | ような方法がよいか, 思考ツールなどを用いて考えさせる。 ・相手意識, 目的意識を常に意識 | 情② 協① 知①② |
| | まとめ・創 造・表現 | ○発表会に向けて,練習する。 (7) | もっと動きを大きくした方がいいんじゃない。見ている人に分かりやすいよう、テロップを用意しようよ。せりふにもっと抑揚を付けた方が気持ちが伝わるよね。 | ・相手意識,目的意識を常に意識させ,取り組ませる。 | 協① □① |
| | (実行) | ○学習発表会で神楽につい て,発表する。 | 7 | 【特別活動】学校行事と関連させ 域の方に披露することで達成感に | ! ! |
| 12 | 振り返り | ○参観者の意見をもとに自 分たちの発表を振り返 る。(1) | 美土里町のよさを伝えることができたよ。わたしたちの住む安芸高田市はすばらしい地域だね。自分たちにできることとして、CMづくりに取り組もう。 | げる。 | よ① |

| | | 神楽流援プロミ | ジェクト 第4弾 PR動画で伝 | :え隊 (15) | |
|---|----------------|---|---|--|------------------|
| | | 中来/ | | TEPS (10) | |
| 1 | 課題の設定 | 〇学習発表会の構想を考える中で出てきたCMづくり(PR動画づくり)について具体化するための方策を話し合う。 (2) | どうやったら具体化できるかな。 ネットで調べたり、実際にPR動画をたくさん調べたりしよう。 2学期にいろいろな人にインタビューしたけど、この間、新聞に載った人の神楽愛もすごかったね。 ぜひ話を聞いてみたいな。 | | 情①② □① 協①② |
| | 情報の収集 整理・分析 | ○ゲストティーチャーの話 を聞く。 (1) | ・神楽を続けてきた理由や、続けられたわけが具体的に聞けたね。 ・美土里小の先輩の話として、参考にしたいことがたくさんあったよ。 ・PR動画づくりのやる気がアップしたね。 | などについて自主的に調べ学 習を進めるよう促す。 | |
| | | OPR動画の第1案を班ご とに考える。 (2) | ・映像の入り方は見る人を引き 付けたいね。ずっと見てもら えるようなストーリーを考 えよう。・商工観光課の松田さんに分か るような絵コンテにしよう。 | • 商工観光課の方に見ていただくことを伝え,意欲を引き出す。 | 情①② □② 協①② |
| | | ○いただいた助言を基に絵 コンテの修正を行い、完 成させる。(3)本時1/3 | 伝えたいことの中心をはっき りさせることが必要だね。いいところもあったけど、課題 を改善していくアイディアを 出し合おう。もう一回見ていただいて、OK をもらえるといいな。 | | 協① |
| 2 | まとめ・創 造・表現 | ○絵コンテを基に、撮影を 行い、PR動画を作成す る。 (7) | ・思っていたより大変だな。・自分たちもコロナ禍で頑張っている人たちの役に立ちたい。 | 協力していただく施設や出演者には事前に児童の活動について説明を行い、理解をいただく。アポイントメントを児童自身が取れるように配慮する。 | □② 協①② よ① |
| | | 神楽応援プロジェクト 第5弾 自分たちの活動を振り返ろう(4) | | | |
| 3 | まとめ | 〇自分たちの活動と自己の 成長を関連させた作文を 書く。 (4) | ・美土里神楽応援プロジェクトを通して、地域の宝神楽のすばらしさを改めて知ったよ。 ・伝統芸能を広める活動をすることで、地域に住む人たちの熱い思いを知ったよ。 ・ぼくたちも神楽を通して、故郷を大事にしていきたいな。 | 「成長の視点」 ・神楽についての知識 ・課題解決に向けた取組方法 ・一緒に学んだ友だちのよさ ・故郷に対する思いの変化 ・プロジェクトを通して,自己の成長を振り返らせる。 | よ① 協② |

6 本時の学習

(1) 本時の目標

1回目のPR動画案について、専門家の意見を聞くことで、伝えたいことの中心をはっきりさせ、 課題や改善策を見い出す。

(2) 本時の評価規準

自分たちがつくりたい動画について考える中で、互いの思いを出し合って、友だちと共感できる部分を見付けながら内容について話し合っている。【協働性①】

(3) 学習の展開 (第37時/全50時間)

| (3 |)字 | 習の展開(第 37 時/全 50 時間) | | |
|----|---|---|---|--|
| | | 学習活動 ・予想される児童の反応 | ○指導上の留意事項 ◆努力を要する状況と判断した児童への指導の手立て | ★資質・能力の評 価(評価方法) |
| 5 | 1 | これまでの活動を振り返る。 本時の学習課題を確認する。 | 〇コロナ禍における神楽の現状,その困難さ,再開に向けた多くの人たちの取組について調べてきたこと,自分たちにできることとしてPR動画を作成していることを想起させる。 | |
| | ~ | | | |
| | | | 弾 神楽の魅力がつまったPR動画をつくろう | |
| | | 【学習課題】記憶に残るPR動画 | 画作りに向けて,課題や改善策を見い出そう | 0 |
| 25 | 3 4 | PR動画案について見直しの 観点を確認する。【全体】 PR動画案の見直しを行う。 【グループ→全体】 | ○前時までに考えていた第1案について、商工観光課の松田さんからの助言をいただく。(「よかった点」「改善点」)持参していただいたプロモーションビデオを視聴することで、動画づくりのポイントを明確化する。 ○ゲストティーチャーの話を必要に応じて板書に残し、思考の手がかりとする。 ○中心(核)になるものがはっきることに気付かせる。 ◆見直しの視点が分かりにくい場合は、具体例を示す。 ○学び合いの観点として、目的意識をもたせ、自分事として考えられるようにする。 | ★自分たちがつく りたい動画を いて、 を りたで、 を りたで、 を りたで、 を りたで、 を りたで、 を りたで、 を りたのので、 を りたのので、 を りたのので、 で りたのので りた。 りたのので りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 りた。 |
| 5 | 5 | 本時を振り返るとともに, 今後 の学習の見通しをもつ。 | | |
| | 版り返り例 ・神楽の継承のために頑張っている人の役に立つようなPR動画にしたい。 ・伝えたいことの中心がはっきりしてきたので、取り上げるべき内容をしぼりこんでいこう。 | | | |